

記入例

採用

研究・教育・管理運営及び社会的活動等に係る業績一覧、今後の計画 及び 抱負

1. 研究業績

①学会誌・学術誌・紀要等所載の論文

A：国際的学会誌・学術誌所載論文					
発表年月	論文名	共同執筆の場合		発表誌名 (巻・号・頁)	発行機関又は 発行所名
		総人数	役割		
2007年 3月	※・・・・・・・・・・・・・・・・	7人	b(15%)	・・・・・・・・ (第〇巻・〇号・ 〇〇～〇〇)	・・・学会
2009年 10月	※・・・・・・・・・・・・・・・・	11人	a	・・・・・・・・ (第〇巻・〇号・ 〇〇～〇〇)	・・・学会
発表年月日の早い (古い)ものから 順に西暦(〇〇〇 〇年〇月)で記載。 (以下、全ての項 目・業績について も同様) レフリー(査読者) のある機関誌等に 掲載された論文 は、論文名の前に ※を付すこと。 (以下①B～E同 様) 「役割」の欄には、a、bのいずれかの記号を 記入する。記号aは本人がファーストオーサー 又は執筆責任者、bはその他であることを意味 する。bと記入した場合には記号の後に貢献度 を%で示すこと。					
B：全国的学会誌・学術誌所載論文					
発表年月	論文名	共同執筆の場合		発表誌名 (巻・号・頁)	発行機関又は 発行所名
		総人数	役割		
2010年 3月	※・・・・・・・・・・・・・・・・	2人	a	・・・・・・・・ (第〇巻・〇号・ 〇〇～〇〇)	・・・学会
C：大学(学部)紀要論文					
発表年月	論文名	共同執筆の場合		発表誌名 (巻・号・頁)	発行機関又は 発行所名
		総人数	役割		
2002年 3月	・・・・・・・・ ・・・・・・・・	5人	a	・・・・・・・・ (第〇巻・〇号・ 〇〇～〇〇)	・・・大学

愛教 太郎

2005 年 3 月		6 人	b(20%)	 (第○巻・○号・ ○○～○○)	・・・大学
2010 年 3 月		2 人	b(20%)	 (第○巻・○号・ ○○～○○)	・・・大学

D：地方的学会誌，大学附置施設・センター等紀要論文，講座等発行機関誌，大学以外の研究機関等紀要論文，当該分野で学術的価値が高く評価される公的機関誌所載論文

発表年月	論 文 名	共同執筆の場合		発 表 誌 名 (巻・号・頁)	発行機関又は 発 行 所 名
		総人数	役割		

E：(市販)啓発誌所載論文，高等学校等紀要論文

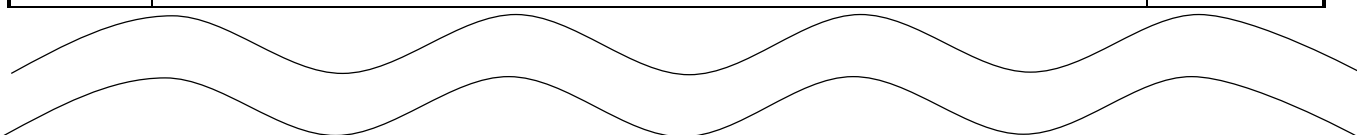
発表年月	論 文 名	共同執筆の場合		発 表 誌 名 (巻・号・頁)	発行機関又は 発 行 所 名
		総人数	役割		

業績がない場合は，空欄（1行）とする。

②学術書単著，学術書等所載の論文

A：学術書単著（ISBN 付・一人で新たに書き下ろしたもの）

発表年月	書 籍 名	発行機関又は 発 行 所 名



--	--	--

⑦実技・作品発表

A：【国際的規模】a. 最高賞受賞・優勝

発表年月	発 表 題 目	共同の場合		受賞・会友・資格その他	発行機関又は 機 関 名
		総人数	役割		
2004 年 8 月		5 人	a	○○賞・第○回○○○大会	○○連盟

受賞名，大会名等を記載する。

愛教 太郎

A：【国際的規模】b. 入賞・ファイナリスト					
発表年月	発表題目	共同の場合		受賞・会友・資格その他	発行機関又は 機 関 名
		総人数	役割		

A：【国際的規模】c. 最高賞受賞・優勝・入賞・ファイナリスト以外のもの					
発表年月	発表題目	共同の場合		受賞・会友・資格その他	発行機関又は 機 関 名
		総人数	役割		
2005 年 7 月	・・・・・・・・・・・・・・・・			優勝・第〇回〇〇フェスティバル	〇〇連盟

B：【全国的規模】a. 最高賞受賞・優勝					
発表年月	発表題目	共同の場合		受賞・会友・資格その他	発行機関又は 機 関 名
		総人数	役割		

--	--	--	--	--	--

⑧口頭・ポスター発表

A：【国際的規模】発表実績				
発表年月	発表題目	共同の場合は 代表者名と総人数	学会，研究会名	発表場所
2002 年 8 月	・・・・・・・・・・・・・・・・	〇〇 〇〇 〇人	〇〇学会 第〇回総会	〇〇大学
2003 年 2 月	・・・・・・・・・・・・・・・・	〇〇 〇〇 〇人	〇〇学会 第〇回大会	〇〇国際会議場

学会名，研究会名，大会等を記載する。

--	--	--	--	--

⑩学位（博士）

年 月	論 文 名	授 与 機 関
2007 年 3 月	・・・・・・・・・・・・・・・・	〇〇大学

愛教 太郎

⑪科学研究費等

A：文部科学省科学研究費等における研究代表者			
年 月	題 目	分 担 者 数	発表誌（書） 発表機関名等
2005 年 4 月		2 人	文部科学省科学研究 費補助金若手 B （2005 年度～2006 年 度）課題番号 ○○○○○○○○
2011 年 4 月			文部科学省科学研究 費補助金基盤 C （2011 年度～2015 年 度）課題番号○○○○ ○○○○
B：文部科学省科学研究費等における研究分担者，又は委任経理金，受託研究における研究代表者			
年 月	題 目	代表者名と総人数	発表誌（書） 発表機関名等
2002 年 7 月		1 人	財団法人○○協会第 ○回学術研究補助金 奨励研究
2019 年 4 月		○○ ○○ 3 人	文部科学省科学研究 費補助金基盤 C（2019 年度～2020 年度）課 題番号 ○○○○○○○○

⑫学会賞

A：【国際的規模】	
年 月	受 賞 名 （ 学 会 名 ）
B：【全国的規模】	
年 月	受 賞 名 （ 学 会 名 ）
2020 年 5 月	○○学会○○○○論文賞
C：【地方的規模】	
年 月	受 賞 名 （ 学 会 名 ）

(欄外) 発行予定の論文等あれば記載する。

愛教 太郎

2. 教育業績

(1). 教育指導に係る業績

①教育・実践経験

A：大学等での経験			
機 関 名	職 種	期 間 (年 数)	備 考
専 任 〇〇大学〇〇学部	講師	2012 年 4 月～2017 年 3 月 (5 年 0 月)	
〇〇大学〇〇学部	准教授	2017 年 4 月～現在 (3 年 9 ヶ月)	
非常勤 〇〇大学	講師	2010 年 4 月～2011 年 3 月 (1 年 0 月)	
B：大学等以外での経験 a. 教科教育担当 ※非常勤は対象外			
機 関 名	職 種	期 間 (年 数)	備 考
〇〇市立〇〇小学校	教諭	2005 年 4 月～2011 年 3 月 (6 年 0 月)	
B：大学等以外での経験 b. 実技・実習系科目担当 ※非常勤は対象外			
機 関 名	職 種	期 間 (年 数)	備 考
		年 月 ～ 年 月 (年 月)	
B：大学等以外での経験 c. その他 ※非常勤は対象外			
機 関 名	職 種	期 間 (年 数)	備 考
		年 月 ～ 年 月 (年 月)	

②教育実績

A：担当授業の実績 a1. 学部：昼間 ・ 1 コマ～12 コマ目 ※過去3年間の実績		
組 織	授 業 題 目	授業形式・実施時期
DF		A：〇〇〇〇年〇月～〇〇〇〇年〇月
DF		B：〇〇〇〇年〇月～〇〇〇〇年〇月
DF		C：〇〇〇〇年〇月～〇〇〇〇年〇月
A：担当授業の実績 a2. 学部：昼間 ・ 13 コマ目以上、又は受講者が50名以上のコマ ※過去3年間の実績		
組 織	授 業 題 目	授業形式・実施
A：担当授業の実績 b. 大学院：昼間 ※過去3年間の実績		
組 織	授 業 題 目	授業形式・実施
DP		A：〇〇〇〇年〇月～〇〇〇〇年〇月
A：担当授業の実績 c. 学部、大学院：夜間又は土曜日 ※過去3年間の実績		
組 織	授 業 題 目	授業形式・実施
NP		A：〇〇〇〇年〇月～〇〇〇〇年〇月
常勤として担当した授業のコマ数合計 (3年間の平均値)：合計 〇〇 コマ (〇 コマ)		
組織：学部昼間 (DF)，学部夜間 (NF) 大学院昼間 (DP)，大学院夜間 (NP) 授業形式：講義 (A)，演習・ゼミ (B) 実験・実習 (C)，その他 (D)		常勤として担当したコマ数合計 (3年間の平均値) を記載する。

愛教 太郎

A：担当授業の実績（非常勤講師としての担当授業） ※過去3年間の実績		
組 織	授 業 題 目	授業形式・実施時期
DF		A：〇〇〇〇年〇月～〇〇〇〇年〇月
B：研究指導の実績（副指導教官含む） a卒業研究（論文）の指導 ※過去3年間の実績		
学部・専攻名等	論 文 名 ， 指 導 内 容 等	
〇〇学部・〇〇専攻	2021 年度	
〇〇学部・〇〇専攻	2022 年度	
B：研究指導の実績（副指導教官含む） b修士論文の指導 ※過去3年間の実績		
大学院・専攻名等	論 文 名 ， 指 導 内 容 等	
B：研究指導の実績（副指導教官含む） c博士論文の指導 ※過去3年間の実績		
大学院・専攻名等	論 文 名 ， 指 導 内 容 等	
C：外国人留学生の指導に関する事項 ※過去3年間の実績		
氏 名	指 導 内 容	
〇 〇〇	修士論文指導（2021 年度）	
D：全学的学生指導に関する事項 ※過去3年間の実績		
指 導 内 容		
履修支援（2021 年度）		
進路・生活指導（2021 年度）		
採用試験対策における模擬面接・指導（2022 年度）		
E：その他学生指導に関する事項 ※過去3年間の実績		
指 導 内 容		
F：教育活動に係る受賞（受賞名） ※過去の実績		

(2). 教育改善に係る業績

A：大学教科書等の執筆等 ※過去5年間の実績						
教科書名等	著 者 名	頁数	共同執筆の場合		発 行 所	発行年
			総人数	役割		
.....		〇〇	5	b(30%)		2022 年
A：大学教科書等の執筆等：注解のみの場合 ※過去5年間の実績						
教科書名等	著 者 名	頁数	共同執筆の場合		発 行 所	発行年
			総人数	役割		
.....		〇〇	2	a		2021 年

B：FD講演会・FDシンポジウムのパネリスト，授業公開の実績 ※過去5年間の実績			
開催日程	名称	内容	役割
2017年4月1日 ～5日	・・・・・・・・	〇〇〇セミナー	授業者
2017年5月11日	・・・・・・・・	〇〇〇に対する課題について	授業者
C：FD講演会，FDシンポジウム，授業公開，新任者研修会参加の実績 ※過去5年間の実績			
開催日程	名称	内容	役割
2020年5月	・・・・・・・・	〇〇〇セミナー	参加者
D：その他教育改善に関する活動の実績 ※過去5年間の実績			
開催日程	名称	内容	役割

3. 管理運営の実績

①全学的な委員会，専門委員会，作業部会等の構成員としての役割

機関名	委員会等の名称	役割	在任期間
〇〇大学	〇〇〇委員会	委員	2020年4月～現在

②特記すべき事項

機関名	委員会等の名称	役割	在任期間

4. 社会的活動等

①本学主催の教員免許状更新講習

2011年8月11日	免許状更新講習	〇〇指導法
2020年9月1日	免許状更新講習	〇〇の理解と支援

②本学主催の公開講座等に関する活動

2020年11月28日	・・・・・・・・（公開講座等名）
-------------	------------------

③学外の公的機関における審議会・委員会等での活動

国レベル	
2018年4月～2019年3月	〇〇〇〇委員会
地方公共団体レベル	

愛教 太郎

④国家試験委員等での活動（科学研究費の審査員等）

2012年4月～2014年3月 独立行政法人〇〇センター 〇〇委員会委員

⑤日本学術会議協力学術研究団体（学会）等での役員等の活動

2020年4月～現在 〇〇〇〇学会 理事

⑥本学以外の公的機関（JSPS，JST，JICA等）を通じた活動

2015年4月～2016年3月 日本学術振興会〇〇委員

⑦公的機関の生涯学習講師，出前授業等としての活動

2018年5月 〇〇市立〇〇中学校〇〇講師

⑧附属学校，本学センター等における社会的活動

2009年10月 〇〇大学附属〇〇小学校 第〇階教育研究発表会助言者

⑨NPO等自主的組織における活動

2010年5月

⑩高等学校等での模擬授業または学習支援に関する活動

2018年6月 〇〇県立〇〇高校 模擬授業

⑪その他の社会的活動

5. 研究・教育・社会的活動等に関する今後の計画等（１０００字程度）

6. 当該教科・科目の担当者として学校教員養成に関わる考えや抱負（１６００字以内）

「研究・教育・管理運営及び社会的活動等に係る業績一覧、今後の計画及び抱負」の記載上の注意

*作成にあたっては、必ずこの様式に従って各自で作成すること。

各欄は、スペースを変更したり該当しないところを削除する等、各自でレイアウトできるが、記載順序は入れ替えないこと。

各項目の記載上の注意事項

*以下の各項目における業績は、発表年月の早い（古い）ものから順に西暦（〇〇〇〇年〇月）で記載すること。

1. 研究業績

●対象の業績：公募締切日までに出版・公表されている業績

*研究発表会や国際会議などの予稿集、要旨集等に掲載されたものは研究業績には含めないこと。

また、同一の業績について2ヶ所以上記載しないように注意すること。（発表誌（媒体）が異なっても1カ所のみ記載とする）

以下「役割」の欄には、a、bのいずれかの記号を記入する。記号aは本人がファーストオーサー又は執筆責任者、bはその他であることを意味する。bと記入した場合には記号の後に貢献度を%で示すこと。 記入例：b（30%）

項目	記載上の注意事項等
① 学会誌・学術誌・紀要等収載の論文	
A. 国際的学会誌・学術誌所載論文	左記項目に該当する論文について記載すること。 ○国際的学会誌・学術誌等が無い又は国内誌をしのぐ水準の学術誌等が存在しない分野においては、当該分野において高い評価を得ている学術誌等を含む。 ○日本国外で刊行されたものであっても、当該国の大学等紀要類は、Cに分類する。
B. 全国的学会誌・学術誌所載論文	左記項目に該当する論文について記載すること。
C. 大学（学部）紀要論文	左記項目に該当する論文について記載すること。
D. 地方的学会誌、大学附置施設・センター等紀要論文、講座等発行機関誌、大学以外の研究機関等紀要論文、当該分野で学術的価値が高く評価される公的機関誌所載論文	左記項目に該当する論文について記載すること。
E. （市販）啓発誌所載論文、高等学校等紀要論文	左記項目に該当する論文について記載すること。 ○助教応募の場合は、修士論文はこの欄に記載すること。

【①A～E 共通の記載上の注意事項等】

○レフリー（査読者）のある機関誌等に掲載された論文は，論文名の前に※を付すこと。

○学会機関誌等であっても，正規の論文以外のものは，原則として⑥（「①②③④⑤」以外の執筆物）へ記載すること。

② 学術書単著，学術書等収載の論文

A．学術書単著（ISBN付・書き下ろし）

左記項目に該当する業績について記載すること。

○一著述をすべて一人で新たに書き下ろしたものを対象とする。

B．後記欄の③A学術書，④A学術書，⑤影印本等に所載の新稿論文や解説・解題（学術論文に準じるもの）

左記項目に該当する業績について記載すること。

○学術論文に準じた内容のものに限る。それ以外は⑥へ掲載のこと。

C．後記欄の③B入門書等，④B入門書等に所載の新稿論文や解説・解題（学術論文に準じるもの）

左記項目に該当する業績について記載すること。

○学術論文に準じた内容のものに限る。それ以外は⑥へ掲載のこと。

③ 学術書等（ISBN付）の編集・監修

A．学術書（ISBN付）

左記項目に該当する業績について記載すること。

○刊行物に対し，全体的な責任を負う編者・監修者を対象とする。

○以下のイ，ロ，ハの編集・監修（一書にまとめ上げたもの）

イ．論文集（大系，叢書，〇〇講座等）

ロ．資料集・校注書・事典等

ハ．ISBNは付かないが，当該分野で学術的価値が高く評価される，公的機関による刊行物

B．入門書等（ISBN付）及び小中高の教科書

左記項目に該当する業績について記載すること。

○刊行物に対し，全体的な責任を負う編者・監修者を対象とする。

公的機関による，ISBNの付かない刊行物も，これに含める。（参考：「大学教科書等の執筆等」は2．教育業績（2）A）

④ 翻訳書（ISBN付）の編集・監修，翻訳論文

A．学術書

左記項目に該当する業績について記載すること。

○刊行物に対し，全体的な責任を負う編者・監修者を対象とする。

B．入門書等

左記項目に該当する業績について記載すること。

○刊行物に対し，全体的な責任を負う編者・監修者を対象とする。

C. 論文	左記項目に該当する業績について記載すること。 ○刊行物に対し、全体的な責任を負う翻訳者を対象とする。
⑤ 影印本（写真複製）・復刻版（ISBN付）の編集・監修	左記項目に該当する業績について記載すること。 ○刊行物に対し、全体的な責任を負う編者・監修者を対象とする。
⑥ ①，②，③，④，⑤以外の執筆物	○専門領域に関する学術的著述を対象とする。 例）書評，辞書・事典の項目，新聞等のコラム，小中高の教科書教材等 ○科研費の成果報告書も対象とするが，別途，論文・著書等として公刊された場合は，公刊された著作物を①②（学術論文）の対象として，当該報告書については対象外とする。
⑦実技・作品発表	
A. 国際的規模	
a. 最高賞受賞・優勝	国際的規模の大会，展覧会等の左記項目に該当する業績について記載すること。 ○国際的な実技・作品発表等が存在しない分野，あるいは国内における実技・作品発表が国際的な水準に勝る分野では，当該分野において高い評価を得ている競技会，演奏会，展覧会を含む。
b. 入賞・ファイナリスト	
c. 上記以外のもの	
B. 全国的規模	
a. 最高賞受賞・優勝	全国的規模の大会，展覧会等の左記項目に該当する業績について記載すること。
b. 入賞・ファイナリスト	
c. 上記以外のもの	
C. 地方的規模	
a. 最高賞受賞・優勝	地方的規模の大会，展覧会等の左記項目に該当する業績について記載すること。
b. 入賞・ファイナリスト	
c. 上記以外のもの	

⑧ 口頭・ポスター発表	
A. 国際的規模の学会・研究会	左記項目に該当する業績について記載すること。 ○口頭発表者あるいは責任発表者となったものを対象とする。 ○①②（学術論文）に記載した内容を発表したものについても記載できる。
B. 全国的規模の学会・研究会	
C. 地方的規模の学会・研究会	
⑨ 講演・シンポジスト等	
A. 国際的規模の学会・研究会	左記項目に該当する業績について記載すること。 ○A, B, Cは, 責任講演者となったものを対象とする。
B. 全国的規模の学会・研究会	
C. 地方的規模の学会・研究会	
D. シンポジウムなどの企画・司会等	
⑩ 学位（博士）	
博士の学位について記載すること。	
⑪ 科学研究費等	
A. 文部科学省科学研究費等における研究代表者	左記項目に該当する業績について記載すること。
B. 文部科学省科学研究費等における研究分担者 委任経理金, 受託研究における研究代表者	
⑫ 学会賞	
A. 国際的規模の学会	左記項目に該当する学会賞について記載すること。
B. 全国的規模の学会	
C. 地方的規模の学会	
(欄外)	
論文等発行予定のものを記載すること。	

2. 教育業績

(1) 教育指導に関する項目

①教育・実践経験

●対象の業績：公募締切日までの実績

項目	記載上の注意事項等
A. 大学等での経験	大学（大学院を含む），大学共同利用機関，短期大学，高等専門学校（4 学年～5 学年担当）等における教育経験について，専任と非常勤に区分し記載すること。
B. A 以外	
a. 教科教育担当者の場合	実践経験について，幼稚園，小学校，中学校，高等学校，特別支援学校（盲学校，聾学校，養護学校），高等専門学校（1 学年～3 学年担当），企業，病院，保育所その他の施設での経験を記載すること。
b. 実技・実習系科目担当者の場合	
c. その他の場合	
	○非常勤は対象外

②教育実績

●対象の業績：公募締切日の属する期を起算点とした、過去の実績

（A～E は過去 3 年間の実績）

（例）2023年8月が公募締切の場合：過去 3 年間の実績とは、「2020年度後期、2021年度前期・後期、2022年度前期・後期、2023年度前期」の実績
2023年11月が公募締切の場合：過去 3 年間の実績とは、「2021年度前期・後期、2022年度前期・後期、2023年度前期・後期」の実績

項目	記載上の注意事項等
A. 担当授業の実績（過去 3 年間の実績）	
1 コマ～1 2 コマ a. 学部（昼間）	担当授業の実績（過去 3 年間の実績）について記載すること。 ○専任と非常勤に区分し，組織及び授業形式については次の区分により，記号で記載すること。また，授業形式欄には担当した年度も記載すること。 組織： 学部昼間（DF），学部夜間（NF）， 大学院昼間（DP），大学院夜間（NP） 授業形式： 講義（A），演習・ゼミ（B）， 実験・実習（C），その他（D）
1 3 コマ以上又は受講者数の特に多い授業担当	
b. 大学院（昼間）	
	○『学部：昼間』の授業については，「1コマ～12コマ」，「13コマ目以上，又は受講者が50名以上のコマ」で分けて記載すること。

c. 学部・大学院（夜間・土曜日）	○常勤として担当した授業のコマ数合計と3年間の平均値を記載すること
B. 研究指導（副指導教官を含む）（過去3年間の実績）	
a. 卒業論文	左記項目に該当する指導実績について記載すること。
b. 修士論文	左記項目に該当する指導実績について記載すること。 （M1からの指導含む）
c. 博士論文	左記項目に該当する指導実績について記載すること。
C. 外国人留学生の指導（過去3年間の実績）（「B. 研究指導」との重複可）	左記項目に該当する指導実績について記載すること。 ○指導した学生の氏名も併せて記載すること。
D. 全学的学生指導（過去3年間の実績）	左記項目に該当する指導実績について記載すること。 ○履修支援，進路・生活指導，障害学生に対する生活・学習支援等が対象
E. 学生指導（過去3年間の実績）	左記項目に該当する指導実績について記載すること。 ○アカデミッククエスト，学外での実地指導（基礎実習の引率，基礎実習・インターンシップのコーディネーター，工場見学，社会見学，調査等），学内での臨床実習に関する指導・助言等が対象（教育実習の連絡指導は含まない。）
F. 教育活動による受賞（過去の実績）	左記項目に該当する受賞について記載すること。

(2) 教育改善に関する項目

●対象の業績：公募締切日の属する期を起算点とした、**過去5年間**の実績

(例) 2023年8月が公募締切の場合：過去5年間の実績とは、「2018年度後期～2023年度前期」の実績

2023年11月が公募締切の場合：過去5年間の実績とは、「2019年度前期～2023年度後期」の実績

大学における教育の改善及び資質向上に関する教授法の改善、カリキュラムの改善についての実行内容、ファカルティ・ディベロップメント（FD）に関する過去の実績（講演会、シンポジウム、授業公開、新任者研修会、その他教育改善に関する活動等について記載すること。ただし、**研究業績欄に記載したものは除く。**

項目	記載上の注意事項等
A. 大学教科書等の執筆等 注解のみの場合	左記項目に該当する実績について記載すること。 ○「役割」の欄には、a、bのいずれかの記号を記入する。記号aは本人がファーストオーサー又は執筆責任者、bはその他であることを意味する。bと記入した場合には記号の後に貢献度を%で示すこと。 記入例：b（30%） ○注解のみの執筆の場合と分けて記載すること。
B. FD講演会・FDシンポジウムのパネリスト、授業公開者の場合	左記項目に該当する実績について記載すること。
C. FD講演会・FDシンポジウム、授業公開、新任者研修会参加の場合	左記項目に該当する実績について記載すること。
D. その他教育改善に関する活動の場合（改善に関するプロジェクトへの参加等）	左記項目に該当する実績について記載すること。 ○教科書、翻訳書、教育改善に関する論文・啓発書（新聞等への執筆を含む）、教材（メディア、プリント等で他者も使用可能なもの）、教育用ソフトウェア等が対象

3. 管理運営に関する貢献

* 本学又は勤務校での管理運営に関わった活動の実績を記載すること。

委員会，専門委員会，作業部会等を対象とする。

●対象の業績：公募締切日までの業績

項目	記載上の注意事項等
① 全学的な委員会，専門委員会，作業部会等の構成員としての役割	左記項目に該当する実績について記載すること。
② 特記すべき事項	左記項目に該当する実績について記載すること。

4. 社会的活動に関する貢献

●対象の業績：公募締切日までの業績

* 以下，①～⑪について，名称，役割（具体的活動），任期等を記載すること。

* 採用人事で当書式に記載する場合に，応募者は，「記載上の注意事項等」欄に記載のように読み替えること。

項目	記載上の注意事項等
① 本学主催の教員免許状更新講習	○採用の場合は、「本学主催」を「応募者所属大学主催」に読み替える。
② 本学主催の公開講座等に関する活動	○採用の場合は、「本学主催」を「応募者所属大学主催」に読み替える。
③ 学外の公的機関における 審議会・委員会等での活動	国レベル ----- 地方公共団体レベル ○採用の場合は、「学外の」を「応募者所属大学以外の」と読み替える。 ○国レベルの活動と地方公共団体レベルの活動に分けて記載すること。
④ 国家試験委員等での活動（科学研究費の審査員等）	
⑤ 日本学術会議協力学術研究団体（学会）等での役員等の活動	
⑥ 本学以外の公的機関（JSPS, JST, JICA等）を通じた活動	○採用の場合は、「本学以外の」を「応募者所属大学以外の」と読み替える。
⑦ 公的機関の生涯学習講師，出前授業等としての活動	
⑧ 附属学校，本学センター等における社会的活動	○採用の場合は、「附属学校，本学センター等」を「応募者所属大学の附属学校，センター等」と読み替える。
⑨ NPO等自主的組織における活動	
⑩ 高校等での模擬授業または学習支援に関する活動	
⑪ その他社会的活動	

5. 研究・教育・社会的活動等に関する今後の計画等

研究・教育・社会的活動等項目について、合計1,000字程度記載すること。

6. 当該教科・科目の担当者として学校教員養成に関わる考えや抱負

1,600字以内で記載すること。